

認知症と高齢者虐待

～認知症を正しく理解しましょう～



先にも述べたように、虐待をされている高齢者の約60%に何らかの認知症の症状がみられます。認知症による言動の混乱は、介護者の負担の増大やストレスとなり、虐待の要因にもなっています。認知症を正しく理解し、認知症の早期発見と適切な支援により介護負担を軽減していくことで、虐待を未然に防ぐことが大切です。

認知症ともの忘れは違うの？

認知症は、単なるもの忘れが激しくなったわけではなく、誰にも起こりうる脳の病気のひとつです。いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなつたために精神機能の障害が起こっている状態をさします。でも、病気といってあきらめないでください。認知症は早期診断により、治療で治すことや、進行を遅らせることができます。また、病気によって症状も対応の仕方も違います。まだまだ症状が軽いからと先延ばしにしないで、もしかしたら…と思ったら、なるべく早い時期に専門医療機関で受診してください。地域包括支援センターや保健所・保健センターへ相談し情報を得ることもできます。本人や身近にいる家族が、認知症の症状に初期のうちに気付き、専門医療機関の受診につなげることが大切です。

認知症について正しく理解しましょう

「認知症だから本人は何もわからない・何もできない」、「本人はわからないから気楽だ」と思っていませんか？決してそんなことはないのです。本人が忘れたくないことも忘れてしまい、自分の居場所さえわからない、そばにいる人もわからない、そんなことが起こってしまう不安やストレスと本人は鬱い、苦しんでいるのです。周りから見れば不可解な言動は、本人はどうしたらいいのかわからない不安と混乱によるものであることを理解しなければなりません。また、認知症で記憶はとぎれとぎれであっても、心は豊かであり、できることはたくさんあります。認知症だから何もできないのではなく、何もやる機会がない生活が認知症の状況を悪化させていきます。なんでもしてあげる介護から、できなくなったことへ手を差し伸べ、できることはやってもらうことが、本人に残っている機能を維持していくことになり、生活の中で役割をもつことが本人の自信につながります。認知症であっても、自分らしく尊厳のある暮らしができるよう支援していくことが大切です。

先が見えない介護 がんばりすぎないで

いつまで続くか先が見えない介護…ひとりで乗り切るのはとても大変なことです。認知症の介護では、本人が安心できるなじみのある関係づくりを、家族など関わる人みんなでしていくようしましょう。介護は一人で背負わず、いろいろなサービスや制度を利用して自分のための「ゆとり」をもつことも大切です。まずは、家族や親類、近所の方など、周りの人の協力を得ましょう。そして、地域包括支援センターや在宅介護支援センターなどの相談窓口に気軽に相談しましょう。認知症にかかった人との接し方を知るためにも、専門家のアドバイスを得るとよいでしょう。介護者自身の生活や健康も大切にしてください。

